

今日のトピック 米国の金融政策（2016年9月）

政策金利は据え置き：景気・物価動向を見極め

ポイント1 政策金利を据え置き

政策金利の見通しを下方修正

- 9月20日、21日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%～0.50%で据え置くことを決定しました。
- 声明文では、「利上げの根拠が強まってきた」うえ、「経済見通しに対するリスクも上振れと下振れで概ね均衡」しましたが、「当面は委員会の目標に向けた進捗の状況をさらに見極める」とされました。
- FOMC参加者による経済予測は、16年の成長率および17年の物価見通しが小幅下方修正されました。政策金利の見通しも、16年が0.25ポイントの利上げを2回から1回、17年が同じく3回から2回に下方修正されています。

ポイント2 株式・債券相場は上昇

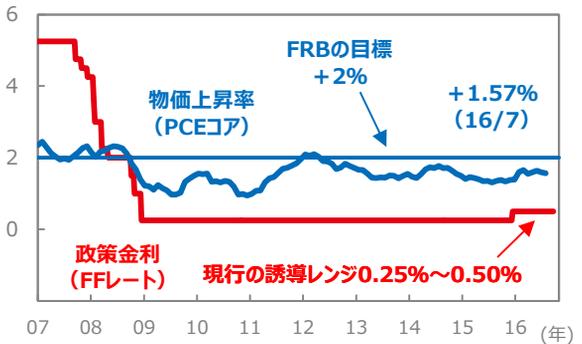
利上げの速度は緩慢との見方

- 声明文の公表後、株価は大幅に上昇、10年国債利回りは低下、為替市場ではドルが主要通貨に対して下落しました。声明文には「利上げの根拠は強まってきた」との文言がありましたが、FOMCメンバーによる政策金利見通しの下方修正などを受けて、利上げは継続されても、その速度は緩慢なものになるとの見方がさらに強まったためです。

今後の展開 緩やかなペースでの利上げ、金融資産には追い風となる見込み

- 物価上昇率は米連邦準備制度理事会の目標である+2%を下回っています。失業率が完全雇用の水準と言われる5%を下回っているため、今後も利上げは継続されると予想されますが、その速度はやはり緩慢なものとなる可能性が高いと考えられます。
- 利上げの速度が緩やかなものにとどまる見通しであることから、国債利回りは当面、落ち着いた動きが予想されます。一方、株価は、物価安定の下での緩やかな景気拡大、企業収益の改善を背景に、堅調に推移する見込みです。

【政策金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFレートは2007年1月5日～2016年9月22日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年7月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【米連邦公開市場委員会（FOMC）参加者の経済見通し】

項目	開催月	2016年	2017年
GDP成長率	9月	1.8	2.0
(%)	6月	2.0	2.0
失業率	9月	4.8	4.6
(%)	6月	4.7	4.6
物価上昇率	9月	1.7	1.8
(%)	6月	1.7	1.9
FFレート	9月	0.6	1.1
(%)	6月	0.9	1.6

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。
(出所) 米連邦準備制度理事会（FRB）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年9月15日 低下した米国の「自然利子率」(米国) 2016年9月 9日 「ベージュブック」、安定成長が持続 (米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。